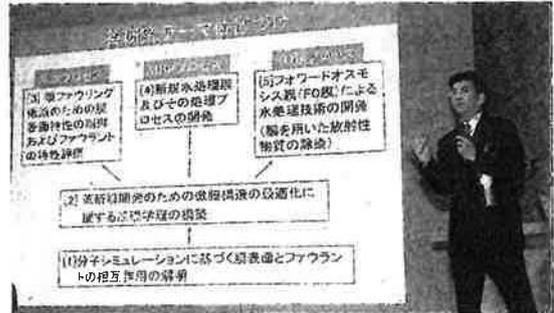


神戸 水ビジネス研究成果報告会 協議会設立し産業化へ



膜研究の現状を説明する神戸大の松山秀人・先端膜工学センター長＝神戸市産業振興センター

神戸大学や新産業創造研究機構(NIRO、神戸市中央区)など7団体が進める水ビジネスの研究成果報告会が10日、神戸市内で開かれた。特許などの出願は当初目標を25%上回る64件に到達。2017年度以降は「ひょうご水ビジネス協議会」を設け、水処理に使う膜技術の産業化に向けて取り組みを強化することも明らかにした。

7団体の事業は、神戸県立大の西岡洋准教授

大先端膜工学センターの研究者を中心に12年度から実施。文部科学省の「地域イノベーション戦略支援プログラム」に認定され、5年間で総額7億円の補助金を受けた。

報告会には約230人が参加した。松山秀人同センター長は「研究目標を十分に達成した。世界に向けた『神戸膜』ブランドを確立したい」と強調。兵庫

は、放射性セシウムを吸着する物質について研究成果を報告した。
(高見雄樹)